

向原群の GPS 発信器位置情報分析結果（令和 7 年 6 月 10 日までのまとめ）

(1) 位置情報の分析結果

1) GPS 発信器の位置情報

向原群に GPS 発信器が装着された令和 7 年 3 月 6 日（装着日）から令和 7 年 6 月 10 日（最新ダウンロード日）までのデータを分析した。

2) 向原群の滞在位置及び行動範囲

向原群の滞在位置及び行動範囲を図 1 に示す。

サル群れの行動範囲は、南北に約 10km、東西に約 5km に広がっており、北は甲田町下小原、東は向原町戸島等、西は吉田町下入江等、そして南は広島市白木町志路まで広がっていた。

また、向原群の滞在位置は、人里・農地があるような山際に多く、山奥へはほぼ戻っていなかった。

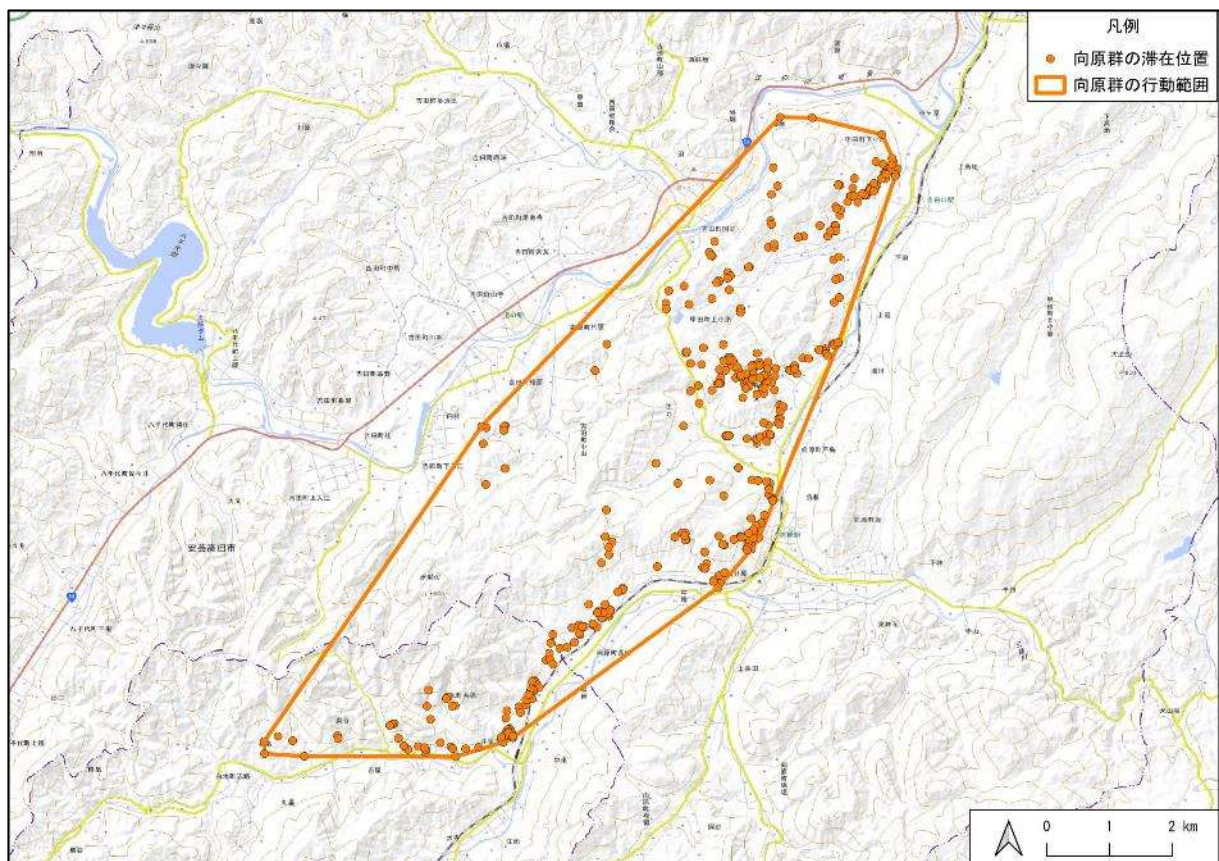


図 1 向原群の滞在位置及び行動範囲（データ：R7.3.6～6.10）

3) 向原群の滞在頻度

向原群の滞在頻度（ヒートマップ）を図 2 に示す。

向原群の滞在頻度は、向原町側及び甲田町下小原周辺で高く、特に越門付近の山に挟まれた農地がある場所での滞在が高かった（図 2 の赤色部分）。

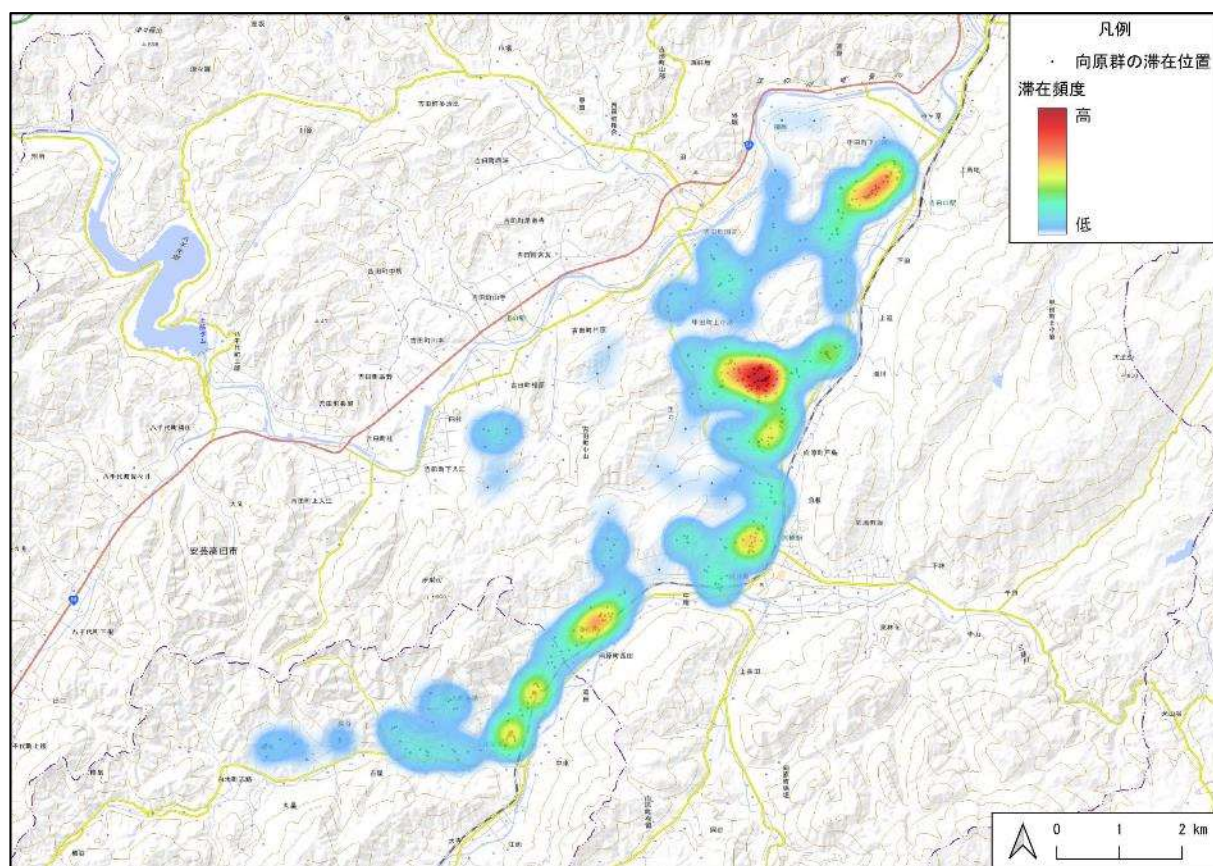


図 2 向原群の滞在頻度（データ：R7.3.6～6.10）

4) 月ごとの向原群の滞在位置

月ごとの向原群の滞在位置を図 3 に示す。

向原群は、3～6 月の期間、時期でどこかに滞在が集中するということはなく、行動範囲内を移動していた。一方で、吉田町側での滞在は、ほぼ 4 月中のみであり、3～6 月の多くは、向原町側での滞在であった。

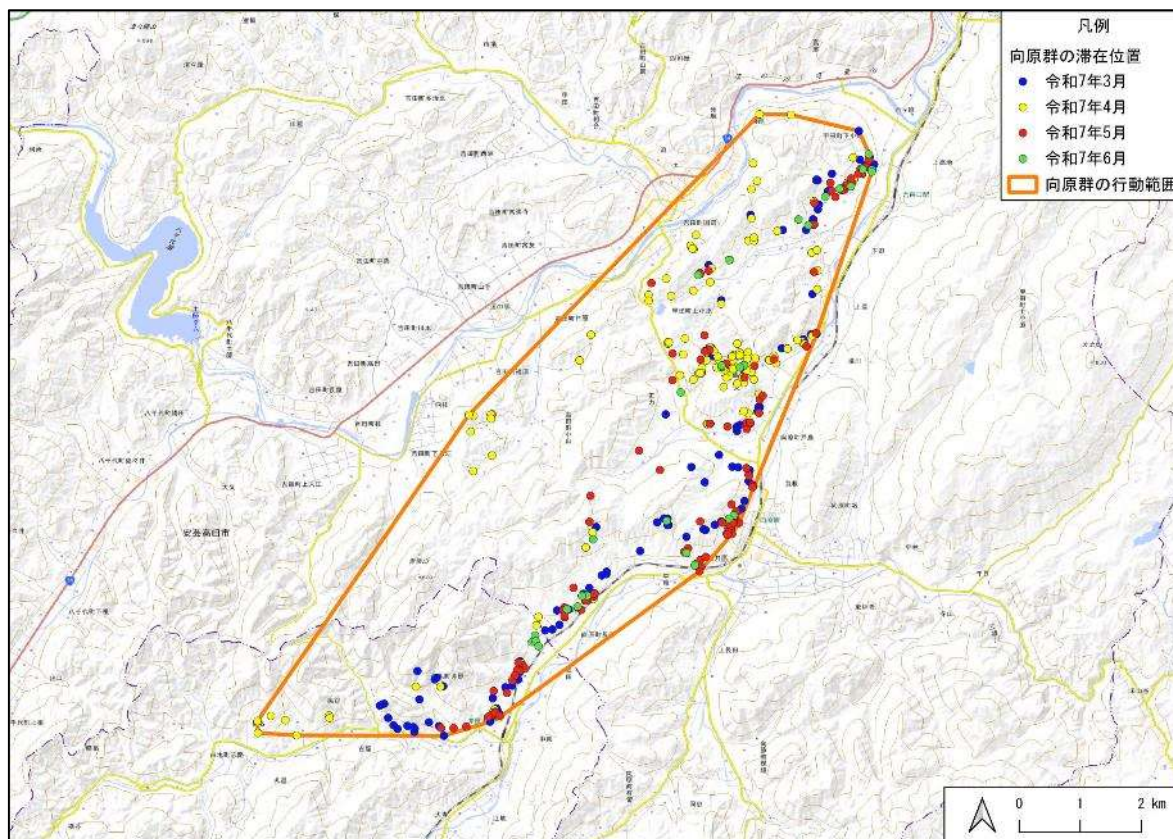


図 3 月ごとの向原群の滞在位置 (データ : R7. 3. 6～6. 10)

(2) まとめ

向原群は、滞在位置が山際に偏っており、山奥へほぼ戻っていないことから、人里への慣れが進み、人里・農地に強く執着している群れである可能性が高い。

3～6月（ほぼ春季）においては、向原群の滞在は向原町側及び甲田町下小原周辺で多く、特に越門付近の山に挟まれた農地がある場所に多かった。一方で、ほぼ4月のみであるものの、吉田町側での滞在も確認されていること、向原群にGPS発信器が装着されてから、まだ日が浅いことから、今後、時季によって吉田町側での滞在が多くなることや、行動範囲が広がる可能性もある。そのため、向原町側で追い払い、誘引物の除去、侵入防止などの対策を計画・実施していくことに加え、場合によっては、吉田町側での対策（誘引物の除去、侵入防止など）も並行して検討していく必要がある可能性があり、今後のサル群れの行動に注意が必要である。